



「セーフ・フロム・ハーム」ガイドライン

2025年 9月6日 教育推進本部会合承認

2025年10月4日 日本連盟理事会承認

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟（以下「当連盟」）は、2025年5月8日の理事会において、「ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン宣言（DEI 宣言）」を採択しました。

この宣言は、スカウト運動に関わるすべての人々の多様性を尊重し、その理解と意識を深めることを目的としています。

当連盟は、DEI 宣言の理念に基づき、スカウトをはじめとするすべての青少年が心身ともに健やかに成長できる、安全で安心な環境づくりを重要な使命と位置づけています。

世界スカウト機構が策定した「世界セーフ・フロム・ハーム方針」は、WOSMのD&I 方針に基づいており、あらゆるスカウト活動において、子どもたちの幸福、健全な発達、安全の確保を最優先とする枠組みを築くものです。

当連盟も「安全・安心の確保」と「質の高いスカウティングの実現」を目指し、思いやりと尊重の心を育む教育の一環として、以下のガイドラインを定めます。

本ガイドラインは、すべての関係者が共通認識として持ち、日々の活動に活かすための行動指針とします。

■ すべての人が安心できる言動を心がけましょう

何気ない言葉や態度が、相手にとって不安やストレスにつながる場合があります。お互いを思いやり、相手の立場に立った振る舞いを大切にしましょう。

■ どんな悩みにも寄り添い、丁寧に対応しましょう

相談を受けた際は、相手の尊厳を大切にし、安心して話せるような姿勢を心がけましょう。複数人での対応により、公正さや透明性が保たれます。また、自分だけで解決が難しいと感じた場合には、自己判断で結論を出すことなく、他のリーダーやコミッショナーに相談しましょう。

■ 喫煙は、スカウトの目に触れないように配慮しましょう

健康的な環境づくりの一環として、喫煙はスカウトのいない場所で、周囲に影響を与えないよう注意を払いましょう。

■ 活動中は飲酒をしません

スカウト活動中は、常に安全と信頼を守る立場であることから、飲酒は固く禁じられています。緊急時に対応できる冷静な状態を保ちましょう。宿泊行事などでも、スカウトの就寝後であっても活動中とみなし、飲酒はしません。

■ 健全な環境のために、心身に悪影響を及ぼす薬物には一切関わりません

違法薬物はもちろん、心身に悪影響を及ぼす薬物には関わらないようにしましょう。

■ 常にチームで活動することを大切にしましょう（指導者バディルール）

スカウト活動中やその前後においても、スカウトと指導者が一対一になる状況を避けましょう。集合・解散時には複数の指導者が立ち会い、宿泊行事の点検も必ず二人以上で行います。SNSなどオンラインでのやりとりも、他の指導者や保護者が確認できる形で行うよう心がけましょう。

一対一の場面では、たとえ問題が起きていなくても「誤解」や「疑念」を招くことがあります。実際に、信頼関係が崩れるきっかけとなった例もあることから、複数人での対応は、自分自身とスカウトを守るための大切な仕組みです。

指導者バディルールに関するQ & A

Q1: すべての活動において、必ず複数の指導者が必要ですか？

A1: 基本的には、集会の集合から解散まで、常に二人以上の指導者がいることが望ましいです。ただし、最低限「スカウトと指導者が一対一にならない」ような配慮を行ってください。特に、隊長一人での活動の場合には、保護者や他の大人と連携しながら体制を整える工夫が求められます。

Q2: スカウトを車で送迎する際、どのような配慮が必要ですか？

A2: 指導者の子ども以外のスカウトと二人きりで乗車することは避けましょう。やむを得ない場合は、保護者との信頼関係の上で事情を説明し、同意を得たうえで対応することが望ましいです。

Q3: デンリーダーが一人の場合、組集会はどうしたらよいですか？

A3: 自分の子ども以外のスカウトと二人きりにならないよう工夫しましょう。集合や解散の際に他の保護者や指導者の協力を得ることで、一対一の状況を防げます。また、デンリーダー自身もセーフ・フロム・ハーム研修を受けていることが安心につながります。

Q4: 集合時に他の指導者が遅れてしまい、自分一人になってしまいました。

A4: 保護者に協力をお願いし、他の指導者が到着するまでその場にいてもらいましょう。現場での柔軟な連携が、全体の安全と安心を支えます。

Q5: このルールはすべての部門(ビーバー～ローバー)に適用されますか？

A5: はい、基本的にはすべての部門が対象です。ただし、年齢や活動形態に応じた対応については、引き続き検討を進めていきます。

Q6: 一対一になるとは、どのような状況ですか？

A6: 他の指導者の姿が見えず、声も届かない状況でスカウトと二人きりになることを指します。物理的に離れていても「周囲の目がある状態」を保つことが大切です。

以 上